

<書 誌>

国連女性差別撤廃条約および ジェンダーに関する国内参考文献 (2010年1月－2011年9月)

軽 部 恵 子

2009年は、国連女性差別撤廃条約採択から30年になる節目の年であった。また、同年7月に第44会期女性差別撤廃委員会（CEDAW）で第6回日本政府報告が検討された。新しく採用されたフォローアップ報告制度がこの時日本に適用され、2011年7月までに日本政府がとくに指摘された分野について、前回報告審議以来とった措置を報告するよう求められた。2010年夏、日本のフォローアップ報告を検討することになっているシモノヴィッチ（Dubravka Šimonović）CEDAW 委員が来日したこともあり、女性差別撤廃条約に関する研究が多数の研究者によって意欲的に行われた。

女性差別撤廃条約の国内適用が効果的に実施されるためには、ジェンダーに関する理解が進む必要がある。ジェンダーの定義は、一般に「生物学的な性別を示すセックスに対して、社会的・文化的に形成される性別。作られた男らしさ・女らしさ」（『広辞苑』第6版、岩波書店、2008年）とされる。一方、男らしさ、女らしさの定義は、国はもちろん、文化、宗教、歴史によって大きく異なる。個人の認識や理解度は文字通り千差万別である。

本稿では、ジェンダーの本質に関してより深い理解を得るために、幾つかの視点をもって文献を収集した。第1に、幅広い分野のトピックを取り上げ、大まかに5つのテーマに分けた。それらは、(1)ジェンダー総論、ジェンダー法学、(2)労働・経済的活動、(3)性と生殖、婚姻、家族など、(4)女性

に対する暴力、(5)歴史、文化史、教育、メディアなどである。実際に文献を収集してみると、研究の幅広さと深さは著者の想像をはるかに超えた。これは、日本国内の大学で女性学またはジェンダー研究所が設置され、研究体制が拡充してきたこと、2008年秋の金融危機以降、以前にも増して女性の経済的自立、とくに出産後の就業継続とそれを可能にするための男女のワーク・ライフ・バランス（WLB）が研究されていること、性同一性障害を含む性と生殖に関する社会の理解が進んだことなどが挙げられよう。

第2の視点として、ジェンダーは女性と男性の双方を含むので、当然男女双方の問題を取り上げた。たとえば、ジェンダー学はかつて女性学として発展してきたが、近年では「男性学」という視点も生まれ、優れた研究が発表されてきた。また、ワーク・ライフ・バランスおよび親という点では、父性の理解が不可欠である。さらに、女性が結婚・出産後も仕事を継続するには、「イクメン」（育児をする男性）の人口増が求められるのはいうまでもない。

第3に、女性に対する暴力、すなわちセクシュアル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンス（DV）などは、複数の項目に分類した場合がある。たとえば、職場におけるセクシュアル・ハラスメントは、労働問題と女性に対する暴力の両者に分類した。これは、読者がどちらの視点で興味関心を抱いていても、参考文献にたどりつくようにするためである。

第4に、ジェンダーに関する文献を人文・社会科学系の学術雑誌に限らず、自然科学系の学術雑誌からも幅広く集めた。とかくジェンダーというテーマに関する理解は、個人の価値観・体験に固定されがちである。そもそも、我々人間の身体およびジェンダーに関する行動がどのような原理に成り立っているのか、自然科学者の研究を理解することは、法学者、社会学者、人文学者のいずれにとっても重要ではないか。

1994年6月に旧総理府に男女共同参画室が設置されて以来、男女共同参画に関する各種調査報告書が毎年出されている。政府内部で資料やデータの蓄積が進んでいることは喜ばしい。その一方、いくら社会の実態把握が進んでも、それが現実の施策に反映されなければ、意味がない。3月11日

の東日本大震災後、日本政治のあらゆる面が停滞しているが、男女共同参画も例外ではない。

市や区などの地方自治体がまとめた調査報告書があまりに多数にのぼるため、この書誌に含まなかったが、ぜひ各自治体、各地の女性センター等のホームページを閲覧してほしい。そのような人には、東京ウィメンズプラザの蔵書検索サイト (<http://www2.tokyo-womens-plaza.metro.tokyo.jp/>) をまず利用するよう推奨する。

【女性差別撤廃条約に関する文献】

- ・浅倉むつ子＝林陽子「対談 女性差別撤廃条約の30年」特集 差別禁止と均等待遇実現への新たな一歩：国連勧告を契機として『労働法律旬報』No. 1711-1712 1月合併号（2010年1月）
- ・近江美保「女性差別撤廃条約選択議定書：個人通報制度と調査制度」『労働法律旬報』No. 1711-1712 1月合併号（2010年1月）
- ・越堂（こえどう）静子「国連・女性差別撤廃委員会へのオルタナティブ・レポート」『女性労働研究』第54号（2010年1月）
- ・越堂静子「CEDAW と NGO のコラボレーション：CEDAW でミラクル」『労働法律旬報』No. 1711-1712（2010年1月）
- ・柴田真佐子「男女平等，女性の地位向上をめざして勧告をいかそう」『全労連』第157号（2010年2月）
- ・内閣府男女共同参画局「女子差別撤廃委員会における女子差別撤廃条約実施状況 第6回報告の審議と最終見解について」『女性と労働21』第18巻 通算第71号（2010年2月）
- ・山下泰子「ジェンダー平等社会への好機：女性差別撤廃条約採択30周年と日本の課題」『世界』第801号（2010年2月）
- ・山下泰子『女性差別撤廃条約と日本』尚学社（2010年2月）
- ・山下泰子「女性差別撤廃条約と日本」『文京学院大学外国語学部紀要』第9号（2010年2月）
- ・山下泰子「日本における国連女性差別撤廃条約の現状と課題：○九年

CEDAW『総括所見』を中心に」『女性と労働21』第18巻 通算第71号
(2010年2月)

- ・親川裕子「女性差別撤廃条約委員会第6回日本政府審査傍聴記録：先住民民族、マイノリティ女性、複合差別の視点から」沖縄大学地域研究所『地域研究』第7号(2010年3月)
- ・国際女性の地位協会編『コンメンタル女性差別撤廃条約』尚学社(2010年3月)
- ・林陽子「女子差別撤廃条約：30年目の到達点」『国立女性教育会館研究ジャーナル』第14号(2010年3月)
- ・フリーターズフリー編『フェミニズムはだれのもの？：フリーターズフリー対談集』人文書院(2010年4月)
- ・安藤ヨイ子「女性差別撤廃条約実施状況の審議及び『北京+15』に向けたESCAP『バンコク宣言』」ジェンダー法学会『ジェンダーと法』No. 7(2010年7月)
- ・川眞田嘉壽子「女性差別撤廃条約採択の30年と日本の課題：CEDAW『総括所見』のフォローアップをめぐる」ジェンダー法学会『ジェンダーと法』No. 7(2010年7月)
- ・柄谷(からたに)利恵子「女性移住労働者をつくる」『国際政治』No. 161(2010年8月)
- ・国際女性の地位協会編『学んで活かそう女性の権利：女性差別撤廃条約と選択議定書』尚学社(2010年8月)
- ・林陽子「『北京+15』ジェンダー平等の国際的潮流」『ヒューマンライツ』No. 269(2010年8月)
- ・渡辺美穂「女性差別撤廃条約(人権条約と日本政府報告審査)」『子どもの権利研究』No. 17(2010年8月)
- ・伊藤和子「女性差別撤廃条約30年の発展と日本のジェンダー平等の課題」『学術の動向』第15巻第9号(2010年9月)
- ・吉岡睦子「女性差別撤廃条約と国内法の整備」『学術の動向』第15巻第9号(2010年9月)

- ・職場の女性問題研究会編『Q&A 女性と労働110番：働く女性の権利を守るために』第3版 民事法研究会（2010年10月）
- ・辻村みよ子『ジェンダーと法』第2版 不磨書房（2010年10月）
- ・中藤洋子『社会教育の権利と平等：ジェンダーと国際人権の視点から』ドメス出版（2010年10月）
- ・林陽子「女性差別撤廃条約：30年目の成果と課題」『国際人権』第21号（2010年10月）
- ・山下泰子「論説 女性差別撤廃条約の実効性確保と NGO の役割」『国際人権』第21号（2010年10月）
- ・軽部恵子「資料 国連女性差別撤廃条約の実施状況に関する日本政府第6回報告と日本の NGO」『桃山法学』第16号（2010年11月）
- ・ドゥブラヴカ・シモノビッチ, JNCC 訳「女性差別撤廃条約批准25周年 いま日本に求められていること——ドゥブラヴカ・シモノビッチさん」『女性&運動』No. 188（2010年11月）
- ・永井好子「女性差別撤廃条約と日本の課題：ジェンダー平等社会をめざして」『歴史地理教育』No. 766（2010年11月）
- ・川眞田嘉壽子＝山下由紀子＝近江美保共訳「女性差別撤廃条約選択議定書第7条3項による女性差別撤廃委員会の見解：通報 No. 2/2003, Ms. A. T v. Hungary」国際女性の地位協会『国際女性』No. 24（2010年12月）
- ・『2010 JNCC ドゥブラヴカ・シモノヴィッチ委員招聘活動「国連女性差別撤廃委員が語る日本の課題」報告集』JNCC（日本女性差別撤廃条約 NGO ネットワーク）（2010年12月）
- ・林陽子「国連女性差別撤廃委員会第45・46会期報告」国際女性の地位協会『国際女性』No.24（2010年12月）
- ・編集委員会編「CEDAW 第45会期, 第46会期における各国レポート審議概要」国際女性の地位協会『国際女性』No. 24（2010年12月）
- ・近江美保「CEDAW 総括所見が求めるもの：シモノヴィッチ CEDAW 委員講演解題」『女性労働研究』第55号（2011年1月）
- ・ドゥブラヴカ シモノヴィッチ「女性差別撤廃条約批准二五周年と履行

における諸課題』『女性労働研究』第55号(2011年1月)

- ・山下泰子他「シモノヴィッチ CEDAW 委員の講演をうけて」『女性労働研究』第55号(2011年1月)
- ・金城清子「女性差別撤廃条約と日本」『龍谷法学』第43巻第3号(2011年3月)
- ・山元一「ジェンダー関連領域における国際人権法と国内裁判」芹田健太郎他編『国際人権法の国内的実施』講座国際人権法3 信山社(2011年3月)
- ・米田眞澄“CEDAW’s Impact on Equality between Women and Men in Japan”『女性学評論』No. 25(2011年3月)
- ・阿部浩己「CEDAW の＜脱女性化＞？」ジェンダー法学会『ジェンダーと法』No. 8(2011年7月)
- ・伊藤和子「日本の男女共同参画政策を女性差別撤廃条約の視点から検証する」ジェンダー法学会『ジェンダーと法』No. 8(2011年7月)

【女性問題およびジェンダーに関する文献】

1. ジェンダー総論, 男女共同参画, フェミニズム, ジェンダー法学, 人権, 政策, エンパワーメント
 - ・内閣府男女共同参画局「『北京+15』に向けて国際婦人年(1975年)以降の国連及び国内の動きと最近の国際的動向」『女性と労働21』第18巻第71号(2010年2月)
 - ・村井まや子『ジェンダー・ポリティクスを読む: 表象と実践のあいだ』神奈川大学人文学研究叢書 御茶の水書房(2010年3月)
 - ・浅野富美枝他『大人になる前のジェンダー論』はるか書房(2010年4月)
 - ・国際婦人年連絡会「第3次男女共同参画計画改訂についての意見」『女性と労働21』第19巻第72号(2010年4月)
 - ・辻村みよ子=大沢真理編『ジェンダー平等と多文化共生: 複合差別を越えて』東北大学出版会(2010年4月)
 - ・フォーラム女性と労働21「第三次男女共同参画計画策定にあたっての意

見 労働政策の中心にジェンダー平等を」『女性と労働21』第19巻第72号（2010年4月）

- ・房野桂「第54回婦人の地位委員会（北京+15）記録（抜粋）」『女性と労働21』第19巻第72号（2010年4月）
- ・三井マリ子『ノルウェーを変えた鬚のノラ：男女平等社会はこうしてできた』明石書店（2010年4月）
- ・大海篤子『ジェンダーで学ぶ政治社会学入門：男女平等の未来のために』Social Compass Series 世織書房（2010年5月）
- ・白波瀬（しらはせ）佐和子『生き方の不平等：お互いさまの社会に向けて』岩波書店（2010年5月）
- ・木本喜美子他編『社会政策のなかのジェンダー』講座 現代の社会政策 第4巻 明石書店（2010年6月）
- ・東海ジェンダー研究所記念論集編集委員会編『越境するジェンダー研究』明石書店（2010年6月）
- ・辻村みよ子「男女共同参画社会基本法10周年の課題：ジェンダー法学会の『第2ステージ』にむけて」ジェンダー法学会『ジェンダーと法』No. 7（2010年7月）
- ・山田卓生「特別講演 平等社会の実現に向けて：自己決定，差別廃止と平等実現へむけての35年」ジェンダー法学会『ジェンダーと法』No. 7（2010年7月）
- ・竹中千春「国際政治のジェンダー・ダイナミクス」『国際政治』No. 161（2010年8月）
- ・富田晶子「女性の政治的エンパワーメント測定に関する一考察」『国際政治』No. 161（2010年8月）
- ・中村唯「途上国開発におけるジェンダーと女性のエンパワーメント概念の構築」『国際政治』No. 161（2010年8月）
- ・杉本貴代栄『女性学入門：ジェンダーと社会で人生を考える』ミネルヴァ書房（2010年10月）
- ・天野正子編『グローバリゼーション』新編日本のフェミニズム 9 岩波

書店(2011年1月)

- ・大嶽秀夫『20世紀アメリカン・システムとジェンダー秩序：政治社会学的考察』岩波書店(2011年1月)
- ・金子優子「日本の地方議会に女性議員がなぜ少ないのか：山形県内の地方議会についての一考察」日本政治学会編『ジェンダーと政治過程』年報政治学2010-2 木鐸社(2011年1月)
- ・今里佳奈子「スウェーデン福祉国家とジェンダー政策レジームの展開」日本政治学会編『ジェンダーと政治過程』年報政治学2010-2 木鐸社(2011年1月)
- ・梅川正美「イギリス議会における女性議員と代表論：2002年性差別禁止(選挙候補者)法をめぐって」日本政治学会編『ジェンダーと政治過程』年報政治学2010-2 木鐸社(2011年1月)
- ・大津留智恵子「アメリカ政治過程におけるジェンダーの意味の多様化」日本政治学会編『ジェンダーと政治過程』年報政治学2010-2 木鐸社(2011年1月)
- ・久邇良子「フランスの政治過程への女性参画：男女同数制導入の成果と限界」日本政治学会編『ジェンダーと政治過程』年報政治学2010-2 木鐸社(2011年1月)
- ・鈴木桂樹「イタリアにおける『国家フェミニズム』の展開と限界」日本政治学会編『ジェンダーと政治過程』年報政治学2010-2 木鐸社(2011年1月)
- ・田中三生『ジェンダーとジェンダーフリー・バッシング』明文書房(2011年1月)
- ・辻由希「ジェンダーと代表/表象：『月刊自由民主』と衆議院選挙公報にみる女性の政治的代表」日本政治学会編『ジェンダーと政治過程』年報政治学2010-2 木鐸社(2011年1月)
- ・中谷毅「ドイツにおける女性議員のクオータ制：ドイツ社会民主党の事例を中心に」日本政治学会編『ジェンダーと政治過程』年報政治学2010-2 木鐸社(2011年1月)

- ・大西祥世「CSR 関する国際基準と東アジアにおける展開：女性のエンパワメント原則の展開可能性」江橋崇編著『東アジアの CSR：国連グローバル・コンパクトの新たなチャレンジ』法政大学現代法研究所（2011年 3 月）
- ・加納実紀代「侵略＝差別と闘うアジア婦人会議と第二波フェミニズム」大阪府立大学女性学研究センター『女性学研究』第18号（2011年 3 月）
- ・只友景士「地方自治体の男女共同参画予算とジェンダー予算」大阪府立大学女性学研究センター『女性学研究』第18号（2011年 3 月）
- ・辻村みよ子「男女共同参画と多文化共生への法学的アプローチ：『憲法とジェンダー』の課題をめぐって」『昭和女子大学女性文化研究所紀要』No. 38（2011年 3 月）
- ・人見章子「ジェンダー予算分析の試み：大阪府の男女共同参画推進関係予算を対象に」大阪府立大学女性学研究センター『女性学研究』第18号（2011年 3 月）
- ・伊藤公雄他『女性学・男性学：ジェンダー論入門』改訂版 有斐閣（2011年 4 月）
- ・三成美保『ジェンダー法学入門』法律文化社（2011年 4 月）
- ・山下泰子他編『ジェンダー六法』信山社（2011年 4 月）
- ・日外アソシエーツ『女性・婦人問題の本全情報2007-2010』日外アソシエーツ（2011年 5 月）
- ・辻村みよ子『憲法から世界を診る：人権・平和・ジェンダー [講演録]』法律文化社（2011年 5 月）
- ・辻村みよ子編『壁を越える：政治と行政のジェンダー主流化』岩波書店（2011年 6 月）
- ・伊藤公雄「『男女共同参画』政策の過去・現在・未来」ジェンダー法学会『ジェンダーと法』No. 8（2011年 7 月）
- ・シモーヌ・ヴェーユ著、石田久仁子訳『シモーヌ・ヴェーユ回想録：20世紀フランス、欧州と運命をともにした女性政治家の半生』パド・ウィメンズ・オフィス（2011年 7 月）

- ・大阪府男女共同参画推進財団編『Women Pioneers 女性先駆者たち』大阪府男女共同参画推進財団(2011年7月)
- ・数家(かずや)鉄治「組織間交渉の理論と技能:異文化とジェンダーの視点」『大阪商業大学論集』第7巻第2号(2011年7月)
- ・元(もと)百合子「論説 複合差別概念の有効性に関する一考察」ジェンダー法学会『ジェンダーと法』No.8(2011年7月)
- ・竹信三恵子『女性を活用する国,しない国』岩波ブックレット No.791 岩波書店(2011年9月)
- ・中藤洋子『社会教育の権利と平等:ジェンダーと国際人権の視点から』ドメス出版(2011年9月)

2. 労働,雇用,キャリア,ワーク・ライフ・バランス,育児休業,少子化,社会保障

- ・伍淑子「『育休切り』に対抗する力」『女性労働研究』第54号(2010年1月)
- ・逆井征子「同一価値労働同一賃金をめざして:兼松裁判の十四年」『女性労働研究』第54号(2010年1月)
- ・中野麻美=野崎光枝=本間節子他「座談会 性差別賃金に対する司法救済のあり方を問う:性に中立な職務の価値評価で均等待遇を!」『女性労働研究』第54号(2010年1月)
- ・本多ミヨ子「法廷から 中国出身の女性の闘い 東京美装セクシュアルハラスメント裁判」『女性労働研究』第54号(2010年1月)
- ・本田一成『主婦パート:最大の非正規雇用』集英社(2010年1月)
- ・本間重子「『妊娠・出産調査プロジェクト——聞き取り調査』を終えて」『女性労働研究』第54号(2010年1月)
- ・松田茂樹『揺らぐ子育て基盤:少子化社会の現状と困難』勁草書房(2010年1月)
- ・山崎友記子「記者の目 ジェンダーの目 女性と貧困 母子家庭を通して考える」『女性労働研究』第54号(2010年1月)

- ・ 山田正人『経産省の山田課長補佐，ただいま育休中』文藝春秋（2010年1月）
- ・ 柚木康子「法廷から 労働基準法4条違反事件 昭和シェル石油男女賃金差別事件（現役女性十二名）事件」『女性労働研究』第54号（2010年1月）
- ・ 塩原節子「介護職の賃金改善をめざして：同一価値労働同一賃金原則のアプローチから」『女性と労働21』第18巻第71号（2010年2月）
- ・ 「改正省令・指針の新旧対照表（改正育児介護休業法の施行）（2010年6月）」『女性と労働21』第18巻第71号（2010年2月）
- ・ 厚生労働省「妊娠・出産，産前産後休業及び育児休業等の取得等を理由とする解雇その他不利益取扱い事案に関する相談等の状況について（平成21年度上半期）」『女性と労働21』第18巻第71号（2010年2月）
- ・ 越堂（こえどう）静子「同一価値労働同一賃金は世界の常識：正規も非正規も仕事の価値に等しい賃金を」特集 男女間賃金格差を考える『労働調査』No. 483（2010年2月）
- ・ 白波瀬（しらはせ）佐和子「子ども手当の是非を問う：階層化する子ども世帯」『世界』No.（2010年2月）
- ・ 昭和女子大学女性文化研究所編『女性と仕事』御茶の水書房（2010年2月）
- ・ 山根純佳『なぜ女性はケア労働をするのか：性別分業の再生産を越えて』勁草書房（2010年2月）
- ・ 中西祐子「学生アルバイトとジェンダー：賃金格差，性別職務分離，セクシュアル・ハラスメント」『ソシオロジスト』（武蔵大学社会学会）No. 12（2010年3月）
- ・ 村尾祐美子「昇進見込みと職場更生：職場の女性化・非正規化の影響」『大原社会問題研究所雑誌』No. 617（2010年3月）
- ・ 屋嘉比（やかび）ふみ子「日本における女性労働の現状と課題」大阪府立大学女性学研究センター『女性学研究』第17号（2010年3月）
- ・ 山田省三「近年における男女差別賃金に関する注目判例の動向」『季刊

労働法』No. 228 2010年春号(2010年3月)

- ・梁京姫「韓国に於ける女性労働の現状と課題：非正規雇用労働をめぐる」大阪府立大学女性学研究センター『女性学研究』第17号(2010年3月)
- ・赤坂俊一＝柳谷慶子編著『生活と福祉』ジェンダー史叢書第8巻 明石書店(2010年4月)
- ・岡沢憲芙＝小渕優子編著『少子化政策の新しい挑戦：各国の取組みを通して』中央法規出版(2010年4月)
- ・山崎文夫「外国労働判例研究(74) アメリカ セクシュアル・ハラスメントと報復的差別 [アメリカ連邦最高裁2009.1.26判決]」『労働法律旬報』No. 1718(2010年4月)
- ・安宅川佳之『家族と福祉の社会経済学：少子化から日本を救う処方箋』日本経済新聞出版社(2010年5月)
- ・中島さおり『なぜフランスでは子どもが増えるのか：フランス女性のライフスタイル』講談社(2010年5月)
- ・厚生労働省「変化する賃金・雇用制度の下における男女間賃金格差に関する研究会報告書」『女性と労働21』第19巻第73号(2010年6月)
- ・中野麻美「男女間賃金格差解消のための課題：『変化する賃金・雇用制度の下における男女間賃金格差に関する研究会報告』について」『女性と労働21』第19巻第73号(2010年6月)
- ・山田和代「同一価値労働同一賃金実施のための職務分析・職務評価方法と今後の課題」『女性と労働21』第19巻第73号(2010年6月)
- ・北川良子「出産・育児期にある助産師の就業継続に関する実態調査」日本母性衛生学会『母性衛生』第51巻第2号(2010年7月)
- ・榊原富士子「遺族年金とジェンダー：遺族年金における『遺族』」ジェンダー法学会『ジェンダーと法』No. 7(2010年7月)
- ・数家(かずや) 鉄治「男女協働参画経営の実現に向けて：ジェンダー・コンフリクトとWLB」『大阪商業大学論集』第6巻第2号(2010年7月)
- ・広岡守穂他編著『貴女(あなた)を輝かせるキャリアデザイン』中央大

学出版部（2010年7月）

- ・増田幸弘「児童扶養手当とジェンダー：母子家庭と父子家庭」ジェンダー法学会『ジェンダーと法』No. 7（2010年7月）
- ・水谷英夫「真の『ワーク・ライフ・バランス』実現をめざして」ジェンダー法学会『ジェンダーと法』No. 7（2010年7月）
- ・本澤巳代子「社会保険における被扶養者：年金制度を中心に」ジェンダー法学会『ジェンダーと法』No. 7（2010年7月）
- ・若尾典子「憲法からみた社会保障法におけるジェンダー問題」ジェンダー法学会『ジェンダーと法』No. 7（2010年7月）
- ・阿部菜穂子「『子どもを社会で育てる』：イギリス家族政策13年の成果」『世界』No. 807（2010年8月）
- ・小嶋華津子「定年退職年齢の性別格差是正をめぐる政治」『国際政治』No. 161（2010年8月）
- ・浅倉むつ子「論説 同一価値労働同一賃金原則実施の手法を考える」『国際人権』第21号（2010年10月）
- ・伊藤朋子他編著『しごとの仕方の新時代：格差をこえる男と女』北樹出版（2010年10月）
- ・大森真紀「高齢期における就業：性別と“単身者性”との交錯」『女性と労働21』第19巻第74号（2010年10月）
- ・熊倉瑞恵『デンマークの社会的連帯とワークライフバランス：人生をマネジメントする』全国勤労者福祉・共済・振興協会（2010年10月）
- ・厚生労働省「男女間賃金格差解消に向けた労使の取組支援のためのガイドライン」『女性と労働21』第19巻第74号（2010年10月）
- ・佐藤博樹＝武石恵美子『職場のワーク・ライフ・バランス』日本経済新聞社（2010年11月）
- ・野上裕生「ジェンダー：貧困の女性化」高橋和志＝山形辰史編著『国際協力ってなんだろう：現場に生きる開発経済学』岩波ジュニア新書 No. 668 岩波書店（2010年11月）
- ・大村敦志「福岡セクシュアル・ハラスメント事件：労働環境の再編(1)

[福岡地判平成4.4.16]』『法学教室』No.363 (2010年12月)

- ・渥美由喜『イクメンで行こう！：育児も仕事も充実させる生き方』日本経済新聞社 (2010年12月)
- ・長田華子「グローバル金融危機以降のパングラデシュにおける日系縫製工場と女性労働力：熟練度・賃金査定・世帯保持の観点から」国際女性の地位協会『国際女性』No.24 (2010年12月)
- ・乙部由子『女性のキャリア継続：正規と非正規のはざまで』勁草書房 (2010年12月)
- ・厚生労働省「変化する賃金・雇用制度の下における男女間賃金格差に関する研究会報告書」『女性と労働21』第19巻第75号 (2010年12月)
- ・「雇用の場における育児問題：仕事と家庭の両立支援制度の充実」『女性と労働21』第19巻第75号 (2010年12月)
- ・「差別撤廃に向けた制度改革：労働政策の中心にジェンダー平等を」『女性と労働21』第19巻第75号 (2010年12月)
- ・ミレイユ・ジュリアーノ著、羽田詩津子訳『フランス女性の働き方：仕事と人生を楽しむコツ』日本経済新聞社 (2010年12月)
- ・中間真一＝鷲尾梓『仕事と子育て男たちのワークライフバランス』幻冬舎ルネッサンス (2010年12月)
- ・フェミックス編『ベーシックインカムは希望の原理か』フェミックス (2010年12月)
- ・宮崎由加「イギリス労働法研究会 2010年平等法と男女間同一賃金規制」『季刊労働法』No.232 2011年春 (2010年12月)
- ・森ます美＝浅倉むつ子編『同一価値労働同一賃金原則の実施システム：公平な賃金の実現に向けて』有斐閣 (2010年12月)
- ・岩間暁子「女性労働者の非正規雇用化と格差拡大」『女性労働研究』第55号 (2011年1月)
- ・宇山洋美「女性は派遣労働を望んでいない：シングルマザーで同じ派遣先に一一年」『女性労働研究』第55号 (2011年1月)
- ・大和田香織「記者の目 ジェンダーの目：均等法とともに社会に出て」

『女性労働研究』第55号（2011年1月）

- ・岡崎妙子「女性が安心して働ける環境を！：質屋Xセクシュアル・ハラスメント裁判」『女性労働研究』第55号（2011年1月）
- ・落合絵美「シンガポール 『能力主義』 が子どもをもつ女性労働者に与える影響：所得格差とケア格差の視点から」『女性労働研究』第55号（2011年1月）
- ・北川良子「出産・育児期にある助産師の仕事意欲に栄養を及ぼす要因」日本母性衛生学会『母性衛生』第51巻第4号（2011年1月）
- ・久場（くば）嬉子「女性労働のいま：男女雇用機会均等法制定四半世紀を経て」『女性労働研究』第55号（2011年1月）
- ・井井和子「均等待遇アクション21のめざすもの：この一〇年でみえてきたこと」『女性労働研究』第55号（2011年1月）
- ・高橋菊江「女性の働く権利を求めて：八五年の足跡」『女性労働研究』第55号（2011年1月）
- ・高橋慎一＝村上潔「博士は悲惨だと思ってしまうことこそ悲惨だ：『高学歴ワーキングプア問題』によせて」『女性労働研究』第55号（2011年1月）
- ・丹羽雅代「全面勝訴 現職自衛権の性暴力：女性自衛官人権裁判」『女性労働研究』第55号（2011年1月）
- ・藤本美由紀＝木戸久美子＝伊東美佐江「子育てと仕事の両立に影響する要因：子育て期に就業経験のある女性への面接データ分析から」日本母性衛生学会『母性衛生』第51巻第4号（2011年1月）
- ・本田由紀＝藤原千沙＝山田和代編『女性と労働』労働再審3 大月書店（2011年1月）
- ・湯澤直美＝藤原千沙「生活保護受給期間における母子世帯の就業と収入構造」『女性労働研究』第55号（2011年1月）
- ・日本公認会計士協会近畿会編『女性会計士20人 人生の中間決算書』日本公認会計士協会近畿会（2011年2月）
- ・樋口恵子「人生100年大介護時代の到来：今こそワーク・ライフ・ケア・

バランスの構築を」『世界』No. 813 (2011年2月)

- ・森田園子『キャリア・パスの壁を破る：韓国の働く女性をめぐって』八千代出版 (2011年2月)
- ・阿藤誠他『少子化時代の家族変容：パートナーシップと出生行動』東京大学出版会 (2011年3月)
- ・伊藤誠「ベーシックインカム論を検証する：その可能性と限界」『世界』No. 814 (2011年3月)
- ・軽部恵子「改正育児・介護休業法に関するサイト集」桃山学院大学『桃山法学』第17号 (2011年3月)
- ・同志社大学社会学部産業関係学科編『“働く”を学ぼう：仕事と社会を考える』人文書院 (2011年3月)
- ・独立行政法人国立女性教育会館『子ども・子育て支援を通じた身近な男女共同参画の推進：男女共同参画を推進する施設や団体がおこなう子育て支援と地域づくり』(平成22年度「男女共同参画の視点に立った地域全体で取り組む次世代育成支援事業に関する調査研究」報告書) 独立行政法人国立女性教育会館 (2011年3月)
- ・日本女子大学現代女性キャリア研究所編『女性の多様なキャリア開発のための基礎的研究「女性とキャリアアーカイブ」構築に向けて』「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」研究成果報告書 (平成20～平成22年度) (2011年3月)
- ・日本女性放送社懇談会編『放送ウーマンのいま：厳しくて面白いこの世界』ドメス出版 (2011年3月)
- ・朴宣映「韓国の『男女雇用平等法』施行20年の成果と課題：雇用上の性差別禁止規定を中心に」大阪府立大学女性学研究センター『女性学研究』第18号 (2011年3月)
- ・柳蓮淑「韓国女性の国際移住に関する要因分析：1980年代以降における就労目的での来日事例から」お茶の水女子大学ジェンダー研究センター『ジェンダー研究』第14巻 通巻第31号 (2011年3月)
- ・金谷千慧子『「働くこと」とジェンダー：ビジネスの変容とキャリアの

創造』明石書店（2011年4月）

- ・駒田富枝『働く女性の母性保護』学習の友社（2011年4月）
- ・浅倉むつ子他「シンポジウム 雇用平等法の新たな展開」『日本労働法学会誌』No.117（2011年5月）
- ・竹中恵美子『現代フェミニズムと労働論』竹中恵美子著作集第7巻 明石書店（2011年5月）
- ・中村和雄＝脇田滋『「非正規」をなくす方法：雇用，賃金，公契約』新日本出版社（2011年5月）
- ・居城（いしろ）舜子「同一価値労働同一賃金原則の変遷と課題」『大原社会問題研究所雑誌』No.632（2011年6月）
- ・高田敏明「人事管理上の新たな諸問題6 シリーズ(9) セクシュアル・ハラスメント」『公務員関係判例研究』No.151（2011年6月）
- ・東京都産業労働局『働く女性と労働法 2011年版』東京都産業労働局（2011年6月）
- ・萩原久美子「労働運動のジェンダー主流化と女性の自主活動組織：英米の先行研究に見るジェンダー分析の視点と日本への含意」『大原社会問題研究所雑誌』No.632（2011年6月）
- ・藤原千沙＝湯澤直美「被保護母子世帯の開始状況と廃止水準」『大原社会問題研究所雑誌』No.620（2010年6月）
- ・藤原千沙＝湯澤直美＝石田浩「母子世帯の所得分布と児童扶養手当の貧困削減効果：地方自治体の児童扶養手当受給資格者データから」『貧困研究』No.6（2011年6月）
- ・横田伸子「1990年代以降の韓国における労働力の非正規化とジェンダー構造」『大原社会問題研究所雑誌』No.632（2011年6月）
- ・川田知子「雇用形態と均等待遇：男女がともにワーク・ライフ・バランスを実現できる社会に向けて」ジェンダー法学会『ジェンダーと法』No.8（2011年7月）
- ・今野（こんの）久子「ジェンダー平等にむけての均等法の限界と課題」ジェンダー法学会『ジェンダーと法』No.8（2011年7月）

- ・ 首藤若菜「女性組合役員の増加と組合運動の変化」『大原社会問題研究所雑誌』No. 633 (2011年 7 月)
- ・ 竹中恵美子『家事労働 (アンペイド・ワーク) 論』竹中恵美子著作集第 6 巻 明石書店 (2011年 7 月)
- ・ 林弘子「同一労働同一賃金と同一価値動労同一賃金」ジェンダー法学会『ジェンダーと法』No. 8 (2011年 7 月)
- ・ 三浦まり「労働政策の方向転換における政治主導と審議会：ジェンダー・バイアスは乗り越えられるか」ジェンダー法学会『ジェンダーと法』No. 8 (2011年 7 月)
- ・ 放送と女性ネットワーク in 関西編『放送と女性ネットワーク in 関西が紡いだ20年』放送と女性ネットワーク in 関西 (2011年 7 月)
- ・ 西澤晃彦編『周縁労働力の移動と編成』労働再審 4 大月書店 (2011年 9 月)

3. セクシュアリティ、生殖、身体、結婚・離婚、家族、家族法、 介護など

- ・ 井上俊＝伊藤公雄編『近代家族とジェンダー』社会学ベーシックス 5 世界思想社 (2010年 1 月)
- ・ 榎本知郎『性器の進化論：生殖器が語る愛のかたち』化学同人 (2010年 1 月)
- ・ 須藤みか『エンブリオロジスト：受精卵を育む人たち』小学館 (2010年 1 月)
- ・ 野依智子『近代筑豊炭坑における女性労働と家族：「家族賃金」観念と「家庭イデオロギー」の形成過程』明石書店 (2010年 2 月)
- ・ 民法改正を考える会『よくわかる民法改正：選択的夫婦別姓&婚外子差別撤廃を求めて』朝陽会 (2010年 2 月)
- ・ 守如子 (もり なおこ)『女はポルノを読む：女性の性欲とフェミニズム』青弓社 (2010年 2 月)
- ・ 風間孝＝河口和也『同性愛と異性愛』岩波書店 (2010年 3 月)

- ・北九州市立男女共同参画センター “ムーブ” 編『ジェンダー白書 7 KEKKON 結婚：女と男の諸事情』明石書店（2010年3月）
- ・井上俊＝伊藤公雄編『身体・セクシュアリティ・スポーツ』社会学ベシックス 8 世界思想社（2010年4月）
- ・神原文子『子づれシングル：ひとり親家族の自立と社会的支援』明石書店（2010年5月）
- ・石原理『生殖医療と家族の形：先進国スウェーデンの実践』平凡社（2010年6月）
- ・岡野八代『家族：新しい「親密圏」を求めて』自由への問い第7巻 岩波書店（2010年6月）
- ・北沢杏子「フィールドレポート『婚外子差別裁判』敗訴報告：女性差別撤廃条約採択30周年に」『CGS ジャーナル』国際基督教大学ジェンダー研究センター（Center for Gender Studies: CGS）第5号（2010年6月）
- ・山田昌弘『「婚活」現象の社会学：日本の配偶者選択のいま』東洋経済新報社（2010年6月）
- ・岡野八代「家族の新しい可能性へ：国家からの家族の解放はどこまで可能なのか？」ジェンダー法学会『ジェンダーと法』No. 7（2010年7月）
- ・下河内稔『脳と性』朝倉書店（2010年7月）
- ・立石直子「婚姻の自由とジェンダー：民法731条・733条・750条の改正に向けて問われていること」ジェンダー法学会『ジェンダーと法』No. 7（2010年7月）
- ・二宮周平「婚外子の平等化とジェンダー」ジェンダー法学会『ジェンダーと法』No. 7（2010年7月）
- ・道あゆみ「離婚の自由とジェンダー」ジェンダー法学会『ジェンダーと法』No. 7（2010年7月）
- ・森田亜希子「親となる男性が産後の父親役割行動を考える契機となった妻の妊娠期における体験」日本母性衛生学会『母性衛生』第51巻第2号（2010年7月）
- ・吉田克己「家族法改正で問われるべきもの」ジェンダー法学会『ジェン

ダーと法』No. 7 (2010年 7 月)

- ・大山尚「国際離婚と国境を越えた子どもの連れ去り：子どもの奪取条約について考える」『立法と調査』No. 307 (2010年 8 月)
- ・織田有基子「ハーグ子奪取条約の現在：第 5 回特別委員会における議論の紹介を中心に」『国際法外交雑誌』第109巻第 2 号 (2010年 8 月)
- ・須藤八千代『＜増補＞母子寮と母子生活支援施設のあいだ：女性と子どもを支援するソーシャルワーク実践』明石書店 (2010年 8 月)
- ・増田幸弘「児童扶養手当とジェンダー：母子家庭と父子家庭」『ジェンダーと法』No. 7 (2010年 8 月)
- ・エヴァ・フェダー・キティ著、岡野八代＝牟田和恵監訳『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』白澤社 (2010年 9 月)
- ・森崇英『生殖・発生の医学と倫理：体外受精の源流から iPS 時代へ』京都大学学術出版会 (2010年 9 月)
- ・佐藤博樹＝永井暁子＝三輪哲『結婚の壁：非婚・晩婚の構造』勁草書房 (2010年10月)
- ・杉井静子『たかが姓，されど姓：家族の変化と民法改正の焦点』かもがわ出版 (2010年10月)
- ・柘植あづみ『妊娠を考える：＜からだ＞をめぐるポリティクス』エヌ・ティ・ティ出版 (2010年10月)
- ・岡野あつこ『貴女が離婚を決める前にしなければならない 8 つのこと』グラフ社 (2010年11月)
- ・「特集 2 ハーグ条約と日本の子の監護に関する実務」『自由と正義』61 巻11号 (2010年11月号)
- ・好井裕明「セクシュアリティの多様性と排除」『差別と排除の「いま」』第 6 巻 明石書店 (2010年11月)
- ・竹信三恵子『ミボージン日記』岩波書店 (2010年12月)
- ・中田裕康『家族法改正：婚姻・親子関係を中心に』有斐閣 (2010年12月)
- ・内田緒織「少子化社会における子どもの成長と家族のあり方を考える：愛和病院における育母・育児支援の新たな取り組み」日本母性衛生学会

『母性衛生』第51巻第4号（2011年1月）

- ・ 江口隆裕『「子ども手当」と少子化対策』社会保障・福祉理論選書 法律文化社（2011年1月）
- ・ 久保恭子＝及川裕子＝刀根洋子「祖母性の因子構造」日本母性衛生学会『母性衛生』第51巻第4号（2011年1月）
- ・ 小池泰「親権をめぐる問題点」ジュリスト No. 1414（2011年1月）
- ・ 谷口初美「母となる意味：外国での出産体験」日本母性衛生学会『母性衛生』第51巻第4号（2011年1月）
- ・ 野田聖子『この国で産むということ』ポプラ社（2011年1月）
- ・ 服藤早苗＝三成美保『権力と身体』ジェンダー史叢書第1巻 明石書店（2011年1月）
- ・ 榎本恭子＝梅野貴恵＝軽部薫「母乳育児に対する父親の意識とその要因に関する研究：母親との比較から」日本母性衛生学会『母性衛生』第51巻第4号（2011年1月）
- ・ 佐野誠＝宮川真史『外国人のための国際結婚手続マニュアル：国際業務必携！』日本加除出版（2011年3月）
- ・ 人事院職員福祉局職員福祉課「国家公務員セクシュアル・ハラスメント防止シンポジウム及び講演会」『人事院月報』No. 739（2011年3月）
- ・ 千田（せんだ）有紀『日本型近代家族：どこから来てどこへ行くのか』勁草書房（2011年3月）
- ・ 谷口真由美「リプロダクティブ・セキュリティの一考察：産む（産める）自由は確保されているのか？ 安心・安全に産める社会とは？」世界人権問題研究センター『研究紀要』No. 16（2011年3月）
- ・ エリザベート・バタンテール著，松永りえ訳『母性のゆくえ：「よき母」はどう語られるか』春秋社（2011年3月）
- ・ 深澤真紀『結婚問題』春秋社（2011年3月）
- ・ 松岡悦子＝小浜正子『世界の出産』勉誠出版（2011年3月）
- ・ 宮本みち子編著『人口減少社会のライフスタイル』放送大学教育振興会（2011年3月）

- ・ 生田久美子『男女共学・別学を問い直す：新しい議論のステージへ』東洋館出版（2011年4月）
- ・ 岩永文夫『フーズクの日本史』講談社（2011年4月）
- ・ 田中富久子『女の老い・男の老い：性差医学の視点から探る』NHK出版（2011年4月）
- ・ 田中美樹＝布施芳史＝高野政子『『父親になった』という父性の自覚に関する研究』日本母性衛生学会『母性衛生』第52巻第1号（2011年4月）
- ・ 千葉モト子『家族とジェンダーの社会学』法律文化社（2011年4月）
- ・ 日本弁護士連合会編『今こそ変えよう！ 家族法/婚外子差別・選択的夫婦別姓を考える』日本加除出版（2011年4月）
- ・ 橋本紀子『こんなに違う！ 世界の性教育』メディアファクトリー（2011年4月）
- ・ 森田明美『よくわかる女性と福祉』ミネルヴァ書房（2011年4月）
- ・ 上野千鶴子＝佐田さよ子『結婚帝国』河出書房新社（2011年5月）
- ・ 荻上チキ『セックスメディア30年史：欲望の革命児たち』筑摩書房（2011年5月）
- ・ 国際結婚を考える会＝田代純子『国際結婚・離婚ハンドブック：日本で暮らすために知っておきたいこと』明石書店（2011年5月）
- ・ 窪田充見『家族法：民法を学ぶ』有斐閣（2011年5月）
- ・ 室伏圭子「男性患者からのセクシュアル・ハラスメント的行為に対する女性看護師の認識に関する研究」『獨協医科大学看護学部紀要』第5巻（2011年5月）
- ・ 日本弁護士連合会両性の平等に関する委員会編『離婚と子どもの幸せ：面会交流・養育費を男女共同参画社会の視点から考える』明石書店（2011年6月）
- ・ 石井邦子「乳児期にある孫をもつ祖父母に対する孫育児支援活動の実態と課題」日本母性衛生学会『母性衛生』第52巻第2号（2011年7月）
- ・ 『夫婦親子男女の法律知識』改訂版 自由国民社（2011年7月）
- ・ 有賀美和子『フェミニズム正義論：ケアの絆をつむぐために』勁草書房

(2011年 8 月)

4. 女性に対する暴力（職場におけるセクシュアル・ハラスメントを含む）、 犯罪、人身取引、トラフィッキング

- ・ 本多ミヨ子「中国出身の女性の闘い：東京美装セクシュアルハラスメント裁判」『女性労働研究』第54号（2010年 1 月）
- ・ 赤石憲昭「健康科学大学におけるキャンパス・ハラスメントに関する一調査」『健康科学大学紀要』No. 6（2010年 3 月）
- ・ 大野史恵「人身取引研究の展開と課題：受け入れ国日本における人身取引研究のために」お茶の水女子大学ジェンダー研究センター『ジェンダー研究』第13号 通巻30号（2010年 3 月）
- ・ 越智方美「調査報告 女性に対する暴力に関する研修と普及啓発事業の成果と課題」『国立女性教育会館研究ジャーナル』第14号（2010年 3 月）
- ・ 齋藤百合子「人身取引被害者の帰国後のエンパワーメント支援アプローチ：タイの当事者組織の活動分析から」『国立女性教育会館研究ジャーナル』第14号（2010年 3 月）
- ・ 佐藤ゆかり「『酔っぱらい防止法』の再評価とその限界：ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメントの概念がなかった時代に」『国立女性教育会館研究ジャーナル』第14号（2010年 3 月）
- ・ 「抄録 女性のエンパワーメント国際フォーラム2008：人身取引問題の解決に向けたグローバル・パートナーシップ」『国立女性教育会館研究ジャーナル』第14号（2010年 3 月）
- ・ 西野瑠美子「日本軍『慰安婦』問題を巡る現状と課題：儀式的『和解論』への批判」『アジェンダ』第28号 2010年春号（2010年 3 月）
- ・ パメラ・シングラ「インドにおける女性の権利とジェンダーに基づく暴力」『国立女性教育会館研究ジャーナル』第14号（2010年 3 月）
- ・ 中西祐子「学生アルバイトとジェンダー：賃金格差，性別職務分離，セクシュアル・ハラスメント」武蔵大学社会学会『ソシオロジスト』No. 12（2010年 3 月）

- ・森田ゆり「ドメスティック・バイオレンス家庭に育つ子どもたち：インパクトとリカバリー」『国立女性教育会館研究ジャーナル』第14号（2010年3月）
- ・山崎朋子「＜ジャパゆきさん＞の重暗い季節：東南アジア女性の日本への流出（上）」アジア女性交流史・昭和期篇『世界』No. 802（2010年3月）
- ・山崎文夫「セクシュアル・ハラスメントに関する人格権アプローチと性差別アプローチの併存」『平成法政研究』（平成国際大学法政学会）第14巻第2号（2010年3月）
- ・梅野正信「裁判の中の“性と生”事例ファイル(16) 大学におけるセクシュアル・ハラスメント [高裁判決]」エイデル研究所『セクシュアリティ』No.46（2010年4月）
- ・菊池夏野『ポストコロニアリズムとジェンダー』青弓社（2010年4月）
- ・宋連玉＝金榮編著『軍隊と性暴力：朝鮮半島の20世紀』現代史料出版（2010年4月）
- ・東田有加「妊婦におけるドメスティック・バイオレンス被害の実態：面接式DVスクリーニングの逐語録より」日本母性衛生学会『母性衛生』第51巻第1号（2010年4月）
- ・山崎文夫「外国労働判例研究(74) アメリカ セクシュアル・ハラスメントと報復的差別 [アメリカ連邦最高裁2009.1.26判決]」『労働法律旬報』No. 1718（2010年4月）
- ・アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」編，西野瑠美子＝金富子責任編集『証言 未来への記憶 アジア「慰安婦」証言集Ⅱ 南・北・在日コリア編 下』明石書店（2010年5月）
- ・山崎朋子「＜ジャパゆきさん＞の重暗い季節：東南アジア女性の日本への流出（中）」アジア女性交流史・昭和期篇『世界』No. 804（2010年5月）
- ・北仲千里「フィールドレポート あらゆる性別を包含するドメスティック・バイオレンス政策への課題」『CGS ジャーナル』国際基督教大学ジェ

ンダー研究センター (Center for Gender Studies: CGS) 第5号 (2010年6月)

- ・ 木本喜美子＝貴堂嘉之編『ジェンダーと社会：男性史・軍隊・セクシュアリティ』一橋大学大学院社会学研究科先端課題研究叢書5 旬報社 (2010年6月)
- ・ 馬場・澤田法律事務所編『ストーカー・DVの問題Q & A』暮らしの法律問題シリーズ 中央経済社 (2010年6月)
- ・ 山崎朋子「＜ジャパゆきさん＞の重暗い季節：東南アジア女性の日本への流出（下）」アジア女性交流史・昭和期篇『世界』No. 805 (2010年6月)
- ・ 高橋裕子『デートDVと学校：“あした”がある』エイデル研究所 (2010年8月)
- ・ 小林敦子＝田中堅一郎「ジェンダー・ハラスメント測定尺度の作成」『産業・組織心理学研究』(2010年9月)
- ・ 吉岡睦子「教育の危機管理＜実務編＞スクール・セクシュアル・ハラスメントを防ぐ（上）：監督責任を問われた者108人。求められる組織としての事件防止策」『週刊教育資料』No. 1131 (2010年9月)
- ・ 吉岡睦子「教育の危機管理＜実務編＞スクール・セクシュアル・ハラスメントを防ぐ（中）：被害の訴えがあった場合、学校側は何に注意し、どう対応すればよいのか」『週刊教育資料』No. 1132 (2010年9月)
- ・ 吉岡睦子「教育の危機管理＜実務編＞スクール・セクシュアル・ハラスメントを防ぐ（下）：学校組織として被害を発生させないようにする術」『週刊教育資料』No. 1133 (2010年9月)
- ・ 大越愛子＝井桁碧『現代フェミニズムのエシックス』戦後・暴力・ジェンダー3 青弓社 (2010年10月)
- ・ 小林美佳『性犯罪被害とたたかうということ』朝日新聞出版 (2010年10月)
- ・ あさみ まな『いつか愛せる：DV（ドメスティック・バイオレンス）共依存からの回復』新版 朱鳥社 (2010年11月)

- ・伊田広行『デートDVと恋愛』大月書店(2010年11月)
- ・小島優＝原由利子『世界中から人身売買がなくなるのはなぜ?』合同出版(2010年11月)
- ・「戦争と女性への暴力」日本ネットワーク『暴かれた真実 NHK 番組改ざん事件：女性国際戦犯法廷と政治介入』現代書館(2010年11月)
- ・長島美紀『FGM(女性性器損傷)とジェンダーに基づく迫害概念をめぐる諸課題：フェミニズム国際法の視点からの一考察』早稲田大学出版部(2010年11月)
- ・大村敦志「福岡セクシュアル・ハラスメント事件：労働環境の再編(1) [福岡地判平成4.4.16]」『法学教室』No.363(2010年12月)
- ・亀井明子「子どもの人権侵害としてのスクール・セクシュアル・ハラスメント：子どもの声に耳を傾けて」『季刊教育法』No.167(2010年12月)
- ・デイヴィッド・バットストーン『告発・現代の人身売買：奴隷にされる女性と子ども』朝日新聞出版(2010年12月)
- ・岡崎妙子「女性が安心して働ける環境を！：質屋Xセクシュアル・ハラスメント裁判」『女性労働研究』第55号(2011年1月)
- ・金井淑子『依存と自立の倫理：＜女／母＞(わたし)の身体性から』ナカニシヤ出版(2011年1月)
- ・佐々木綾子「『人身売買』の定義再考にむけて：『いわゆる人身売買』と労働搾取問題」『大原社会問題研究所雑誌』No.627(2011年1月)
- ・富安俊子＝鈴井江三子「青年期男女におけるデートバイオレンスの認識と性差間の相違」日本母性衛生学会『母性衛生』第51巻第4号(2011年1月)
- ・丹羽雅代「全面勝訴 現職自衛権の性暴力：女性自衛官人権裁判」『女性労働研究』第55号(2011年1月)
- ・羽場久美子「グローバリゼーションとトラフィッキング：EU・日本に見る実態と戦略」日本政治学会編『ジェンダーと政治過程』年報政治学2010-2 木鐸社(2011年1月)
- ・石川由香里他『格差社会を生きる家族：教育意思と地域・ジェンダー』

有信堂高文社（2011年2月）

- ・ ジェームズ・ギリガン著、佐藤和夫訳『男が暴力をふるうのはなぜか：そのメカニズムと予防』大月書店（2011年2月）
- ・ 国連女性の地位向上部著、角田由紀子＝柳本祐加子解説、原美奈子＝山下梓訳、矯風会ステップハウス編『女性への暴力防止・法整備のための国連ハンドブック』梨の木舎（2011年3月）
- ・ 柴田香織「漫画に描かれた恋愛分析：錯綜するジェンダー」『金城日本語日本文化』No. 87（2011年3月）
- ・ 人事院職員福祉局職員福祉課「国家公務員セクシュアル・ハラスメント防止シンポジウム及び講演会」『人事院月報』No. 739（2011年3月）
- ・ 独立行政法人国立女性教育会館『人身取引（トラフィッキング）問題について知る2011』（2011年3月）

（注）この書籍はPDF版のみ。<http://www.nwec.jp/jp/publish/#head9>
または <http://www.nwec.jp/jp/publish/report/page35.html> からアクセス可。

- ・ 馬場・澤田法律事務所編『ストーカー・DV被害にあっていませんか？』中央経済社（2011年3月）
- ・ 福嶋由利子「外国人女性に対するドメスティック・バイオレンス：被害者の法的保護と支援体制の拡充に向けて」世界人権問題研究センター『研究紀要』No. 16（2011年3月）
- ・ 山崎文夫「台湾の性騷擾（セクシュアル・ハラスメント）防止関連法律の施行状況」『平成法政研究』（平成国際大学法政学会）第15巻第2号（2011年3月）
- ・ 川原みちよ、中塚幹也「『妊婦のDV被害』の実態と産科医療スタッフの意義」日本母性衛生学会『母性衛生』第52巻第1号（2011年4月）
- ・ 読売新聞大阪本社社会部『性暴力』中央公論新社（2011年4月）
- ・ 室伏圭子「男性患者からのセクシュアル・ハラスメントの行為に対する女性看護師の認識に関する研究」『獨協医科大学看護学部紀要』第5巻（2011年5月）

- ・高田敏明「人事管理上の新たな諸問題 6 シリーズ(9) セクシュアル・ハラスメント」『公務員関係判例研究』No. 151 (2011年 6 月)
- ・原山擁平『セクハラ誕生：日本上陸から現在まで』東京書籍 (2011年 6 月)
- ・高雄さくえ『思考するヒロシマへ：性暴力・ジェンダー・法』hiroshima 1000 シリーズ15 ひろしま女性学研究所 (2011年 7 月)
- ・柳本祐加子「女性に対する暴力」ジェンダー法学会『ジェンダーと法』No. 8 日本加除出版 (2011年 7 月)
- ・雪田樹理「近畿弁護士連合会における性暴力に関する取組み」ジェンダー法学会『ジェンダーと法』No. 8 日本加除出版 (2011年 7 月)

5. 歴史、文化史、教育、メディア、その他

- ・石井美樹子『図説ヨーロッパ宮廷の愛人たち』河出書房新社 (2010年 1 月)
- ・野村育世 文, 石井勉 絵『絵本日本女性史 1 原始・古代・中世』大月書店 (2010年 1 月)
- ・愛知教育大学男女共同参画委員会『中高生のリアルに迫る平等とジェンダー・セクシュアリティの教育』愛知教育大学出版会 (2010年 2 月)
- ・池田忍＝小林緑編著『視覚表象と音楽』ジェンダー史叢書第 4 巻 明石書店 (2010年 2 月)
- ・川口恵子『ジェンダーの比較映画史：「国家の物語」から「ディアスポラの物語」へ』彩流社 (2010年 2 月)
- ・関民子 文, 菊池ひと美 絵『絵本日本女性史 2 近世』大月書店 (2010年 2 月)
- ・有賀夏紀＝小檜山ルイ編『アメリカ・ジェンダー史研究入門』青木書店 (2010年 3 月)
- ・飯野智子「セクシュアリティ表現とジェンダー」『実践女子短期大学紀要』No. 31 (2010年 3 月)
- ・黒田友紀他「小学校における学年配置のジェンダー不均衡」『東京大学

大学院教育学研究科紀要』No. 49 (2010年 3 月)

- ・ 早川紀代 文, 石橋富士子 絵『絵本日本女性史 3 近代・現代』大月書店 (2010年 3 月)
- ・ 黄馨儀「テレビ文化と女性：初期の NHK 朝の連続テレビ小説の形式転換と女性視聴者との関係」国際基督教大学 *Gender and Sexuality*, Journal of Center for Gender Studies, ICU No. 5 (2010年 3 月)
- ・ 梅野正信「裁判の中の“性と生” 事例ファイル(16) 大学におけるセクシュアル・ハラスメント [高裁判決]」『セクシュアリティ』No.46 (エイデル研究所) (2010年 4 月)
- ・ 小藤田千栄子他『女性映画がおもしろい2010年版』Cinema Library Vol. 7 パド・ウィメンズ・オフィス (2010年 4 月)
- ・ 川島慶子『マリー・キュリーの挑戦：科学・ジェンダー・戦争』トランスビュー (2010年 4 月)
- ・ 総合女性史研究会編『時代を生きた女たち：新・日本女性通史』朝日新聞出版 (2010年 4 月)
- ・ 塚田幸光『シネマとジェンダー：アメリカ映画の性と戦争』臨川書店 (2010年 4 月)
- ・ 中村桃子『ジェンダーで学ぶ言語学』世界思想社 (2010年 4 月)
- ・ 野村鮎子＝成田静香編『台湾女性研究の挑戦』人文書院 (2010年 4 月)
- ・ 野村育世＝関民子＝早川紀代編著『絵本日本女性史 4 学習の手引き』大月書店 (2010年 4 月)
- ・ 米澤嘉博『戦後エロまんが史』青林工藝舎 (2010年 4 月)
- ・ 竹村和子＝義江明子編著『思想と文化』ジェンダー史叢書第 3 巻 明石書店 (2010年 7 月)
- ・ 中井俊己『なぜ男女別学は子どもを伸ばすのか』学研パブリッシング (2010年 7 月)
- ・ 木村涼子『＜主婦＞の誕生：婦人雑誌と女性たちの近代』吉川弘文館 (2010年 8 月)
- ・ 伊藤セツ「生活・女性問題研究の途上で：体験的研究史を踏まえて」

『大原社会問題研究所雑誌』No. 623-624 (2010年9月)

- ・宮下忠子『思川 山谷に生きた女たち：貧困・性・暴力 もうひとつの戦後女性史』明石書店 (2010年9月)
- ・吉岡睦子「教育の危機管理＜実務編＞スクール・セクシュアル・ハラスメントを防ぐ (上)：監督責任を問われた者108人。求められる組織としての事件防止策」『週刊教育資料』No. 1131 (2010年9月)
- ・吉岡睦子「教育の危機管理＜実務編＞スクール・セクシュアル・ハラスメントを防ぐ (中)：被害の訴えがあった場合、学校側は何に注意し、どう対応すればよいのか」『週刊教育資料』No. 1132 (2010年9月)
- ・吉岡睦子「教育の危機管理＜実務編＞スクール・セクシュアル・ハラスメントを防ぐ (下)：学校組織として被害を発生させないようにする術」『週刊教育資料』No. 1133 (2010年9月)
- ・上野千鶴子『女ぎらい：ニッポンのミソジニー』紀伊國屋書店 (2010年10月)
- ・ルース・シュウォーツ・コーワン著，高橋雄造訳『お母さんは忙しくなるばかり：家事労働とテクノロジーの社会史』法政大学出版局 (2010年10月)
- ・ベル・フックス著，大類久恵監訳『アメリカ黒人女性とフェミニズム：「私は女ではないの？」』世界人権問題叢書73 明石書店 (2010年10月)
- ・井上摩耶子編『フェミニストカウンセリングの実践』世界思想社 (2010年11月)
- ・木村泰司『美女たちの西洋美術史：肖像画は語る』光文社 (2010年11月)
- ・女子美術大学歴史資料室編『女子美術教育と日本の近代：女子美110年の人物史』女子美術大学 (2010年11月)
- ・亀井明子「子どもの人権侵害としてのスクール・セクシュアル・ハラスメント：子どもの声に耳を傾けて」『季刊教育法』No. 167 (2010年12月)
- ・新・フェミニズム批評の会編『大正女性文学論』翰林書房 (2010年12月)
- ・ウマ・ナラーヤン著，塩原良和監訳，川端浩平他訳『文化を転位させる：アイデンティティ・伝統・第三世界』サピエンティア14 法政大学

出版局（2010年12月）

- ・森まゆみ『断髪のもダンガール：42人の大正快女伝』文藝春秋（2010年12月）
- ・レ・ティ・ニヤム・トゥエット著，藤目ゆき監修，片山須美子訳『ベトナム女性史：フランス植民地時代からベトナム戦争まで』アジア現代女性史8 明石書店（2010年12月）
- ・栗屋利江＝松本悠子編著『人の移動と文化の交差』ジェンダー史叢書第7巻 明石書店（2011年1月）
- ・菅原聡子『女が国家を裏切るとき：女学生，一葉，吉屋信子』岩波書店（2011年1月）
- ・安西篤子他監修『ビジュアル日本史ヒロイン1000人：神話時代から現代まで，女性たちの歴史ドラマ』世界文化社（2011年2月）
- ・岩田託子『図説英国レディの世界』河出書房新社（2011年2月）
- ・田端泰子『日本中世の村落・女性・社会』吉川弘文館（2011年2月）
- ・辻上奈美江『現代サウディアラビアのジェンダーと権力：フーコーの権力論にもとづく言説分析』福村出版（2011年2月）
- ・長野ひろ子＝姫岡とし子編著『歴史教育とジェンダー：教科書からサブカルチャーまで』青弓社（2011年2月）
- ・ジョーン・ヒューバー著，古牧徳生訳『ジェンダー不平等起源論：母乳育が女性の地位に与えた影響』晃洋書房（2011年2月）
- ・キャサリン・ブラックリッジ著，藤田真利子訳『ヴァギナ：女性器の文化史』河出書房新社（2011年2月）
- ・古川裕佳『志賀直哉の家庭：女中・不良・主婦』森話社（2011年2月）
- ・増田裕美子＝佐伯順子編『日本文学の「女性性」』二松学舎大学学術叢書 思文閣出版（2011年2月）
- ・大橋秀子『金子喜一とジョセフィン・コンカー：社会主義フェミニズムの先駆的試み』岩波書店（2011年3月）
- ・「大峰山女人禁制」の開放を求める会編『現代の「女人禁制」：性差別の根源を探る』解放出版社（2011年3月）

- ・財団法人日本女性学習財団編『女性の学びを拓く：日本女性学習財団70年のあゆみ』ドメス出版（2011年3月）
- ・千田（せんだ）有紀編『上野千鶴子に挑む』勁草書房（2011年3月）
- ・田中由布子『女性の日本人男性論』柘植書房新社（2011年3月）
- ・館かおる編『女性とたばこの文化誌：ジェンダー規範と表象』世織書房（2011年3月）
- ・中井亜佐子＝吉田由利編著『ジェンダー表象の政治学：ネーション・階級・植民地』彩流社（2011年3月）
- ・三宅正太郎＝藤田文「アニメ番組視聴が大学生のジェンダー意識に与える影響」『福山大学人間文化学部紀要』No. 11（2011年3月）
- ・小藤田（ことうだ）千栄子他『女性映画がおもしろい2011年版』Cinema Library Vol. 9 パド・ウィメンズ・オフィス（2011年4月）
- ・浜本隆志他『ヨーロッパ・ジェンダー文化論：女神信仰・社会風俗・結婚観の軌跡』明石書店（2011年4月）
- ・村上リコ『図説英国メイドの日常』河出書房新社（2011年4月）
- ・村田京子『女がペンを執る時：19世紀フランス女性職業作家の誕生』新評論（2011年4月）
- ・義江明子『古代王権論：神話・歴史感覚・ジェンダー』岩波書店（2011年4月）
- ・上野千鶴子『不惑のフェミニズム』岩波書店（2011年5月）
- ・藤井和佐『農村女性の社会学：地域づくりの男女共同参画』昭和堂（2011年5月）
- ・増田美子編『花嫁はなぜ顔を隠すのか』悠修館（2011年5月）
- ・山川菊栄著、鈴木裕子編『女の立場から』山川菊栄集 評論篇 第1巻 新装増補版 岩波書店（2011年5月）
- ・竹谷鞆負『富士山と女人禁制』岩田書院（2011年6月）
- ・テレサ・バーガー著、廣瀬和代＝廣瀬典生訳『女性たちが創ったキリスト教の伝統』明石書店（2011年6月）
- ・山川菊栄著、鈴木裕子編『女性の反逆』山川菊栄集 評論篇 第2巻

新装増補版 岩波書店（2011年 6 月）

- ・ 風間末起子『フェミニズムとヒロインの変遷：ブロンテ、ハーディ、ドラブルを中心に』世界思想社（2011年 7 月）
- ・ 権仁淑子＝中野宣子＝大越京子『母から娘へ：ジェンダーの話をしよう』梨の木舎（2011年 7 月）
- ・ 山川菊栄著、鈴木裕子編『牙をぬかれた狼』山川菊栄集 評論篇 第 3 巻 新装増補版 岩波書店（2011年 7 月）
- ・ 大阪弁護士会編『貧困の実態とこれからの日本社会：子ども・女性・犯罪・障害者そして人権』貧困問題がわかるシリーズ 明石書店（2011年 8 月）
- ・ 高井昌史編『「反戦」と「好戦」のポピュラー・カルチャー：メディア／ジェンダー／ツーリズム』人文書院（2011年 8 月）
- ・ 山川菊栄著、鈴木裕子編『無産階級の婦人労働』山川菊栄集 評論篇 第 4 巻 新装増補版 岩波書店（2011年 8 月）
- ・ 山崎明子『ひとはなぜ乳房を求めるのか：危機の時代のジェンダー表象』青弓社（2011年 8 月）
- ・ 近代女性文化史研究会『占領下 女性と雑誌』ドメス出版（2011年 9 月）
- ・ 山川菊栄著、鈴木裕子編『ドグマから出た幽霊』山川菊栄集評 論篇 第 5 巻 新装増補版 岩波書店（2011年 9 月）

【白書・報告書・統計・資料集】

<政府>

- ・ 内閣府仕事と生活の調和推進室「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関するアーカイブの充実に向けた調査 報告書」（平成22年 3 月）（2010年 3 月）
- ・ 内閣府男女共同参画局『男女共同参画白書：男女共同参画の現状と施策』平成22年版（2010年 6 月）
- ・ 内閣府『平成22年版子ども・子育て白書』佐伯印刷（2010年 7 月）
- ・ 内閣府「平成22年度 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

に関する先進的取組事例の調査（調査期間平成22年12月3日～平成23年3月22日）」平成22年10月（2010年10月）

- ・内閣府男女共同参画局「女性の施策・方針決定参画状況調べ」（平成23年1月14日）（2011年1月）
- ・内閣府男女共同参画局「国の審議会等における女性委員の参画状況調べ」平成22年9月30日現在（平成23年1月14日）（2011年1月）
- ・内閣府男女共同参画局「地方公共団体における男女共同参画社会の形成又は女性に関する施策の推進状況」（平成23年1月14日）（2011年1月）
- ・内閣府男女共同参画局「地域における配偶者間暴力対策の現状と課題に関するアンケート調査」（平成23年3月）（2011年3月）
- ・内閣府仕事と生活の調和推進室「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関するアーカイブの充実に向けた調査 報告書」（平成23年3月）（2011年3月）
- ・内閣府「平成21年度 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する先進的取組事例の調査（調査期間平成21年8月18日～平成22年3月15日）」平成23年5月（2011年5月）
- ・厚生労働省雇用均等・児童家庭局『平成22年度版 働く女性の実情』（2011年5月）
- ・厚生労働省雇用均等・児童家庭局『育児・介護休業法施行状況について平成22年度』（2011年5月）
- ・厚生労働省雇用均等・児童家庭局『女性労働者の就業率の推移』21世紀職業財団（2011年6月）
- ・内閣府男女共同参画局『男女共同参画白書：男女共同参画の現状と施策』平成23年版（2011年6月）

<民間>

- ・森上史朗監修，大豆生田啓友＝三谷大紀編『最新保育資料集2010』ミネルヴァ書房（2010年4月）
- ・全国保育団体連絡会＝保育研究所編『保育白書＜2010年版＞』ちいさいな

かま社（2010年 8 月）

- ・ 日本子どもを守る会編『子ども白書2010：「子ども政策」づくりへの総合的提案』草土文化社（2010年 8 月）
- ・ 日本婦人団体連合会編『女性白書2010：女性の貧困 変わる世界と日本の遅れ』ほるぷ出版（2010年 8 月）
- ・ 森上史朗監修，大豆生田啓友＝三谷大紀編『最新保育資料集2011』ミネルヴァ書房（2011年 4 月）
- ・ 労働政策研究・研修機構編『派遣社員のキャリアと働き方に関する調査』JLPT 調査シリーズ No. 80 労働政策研究・研修機構（2011年 6 月）
- ・ 労働政策研究・研修機構編『出産・育児期の就業継続：2005年以降の動向に注目して』JLPT 調査シリーズ No. 136 労働政策研究・研修機構（2011年 6 月）
- ・ アイデム人と仕事研究所編『パートタイマー白書』平成23年版 アイデム人と仕事研究所（2011年 7 月）
- ・ 日本婦人団体連合会編『女性白書2011：日本社会の再生にジェンダーの視点を』ほるぷ出版（2011年 8 月）

以 上